

2022 年度
事業計画書

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

目 次

はじめに	1
1. 環境認識	1
2. 基本方針	1
事業別基本方針	3
I. 競技会事業（公益目的事業 1）	5
【2022 年度の計画概要】	5
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）	6
2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）	8
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）	8
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）	9
II. 普及事業（公益目的事業 2）	10
【2022 年度の計画概要】	10
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）	11
2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）	11
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）	12
4. 広報（公益目的事業 2.4）	13
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）	14
III. 国際交流事業（公益目的事業 3）	15
【2022 年度の計画概要】	15
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）	16
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）	16
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）	18
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）	18
IV. 公益事業共通	19
【2022 年度の計画概要】	19
V. 収益事業等	20
【2022 年度の計画概要】	20
1. 公認（収益事業等 1）	20
2. 商品販売（収益事業等 2）	21
VI. 法人・管理部門	22
【2022 年度の計画概要】	22
1. 会員・会友	22
2. 組織運営	22
3. 常設委員会	22
① 企画委員会	22
② センター協議委員会	22

はじめに

1. 環境認識

新型コロナウイルス感染症（以下、コロナという）の影響は、2021年度も引き続きブリッジ界に深刻なダメージを引き起こした。各ブリッジセンターは緊急事態宣言もしくはまん延防止等特別措置の発令期間が長期化する中、2020年度に大きく落ち込んだテーブル数の回復が思うように進まなかった。セクショナルは全国14ブリッジセンターの年間平均はコロナ以前の70数%にとどまった。ウィークリー、IMPはさらに深刻で、ともに50数%となった。各ブリッジセンターは非常に厳しい状況が続いている。

全国のブリッジクラブにおいても、活動の制限を余儀なくされるケースが目立った。コロナでブリッジを仕方なく控えるプレイヤーが一定の割合で存在し、クラブのメンバーの減少が避けられず、厳しい状況となっている。

JCBLは、公認料収入および主催競技会収入が2021年度も大きくは回復せず、コロナ以前の約70%となった。2021年度のJCBL主催試合はサントリー杯、地域対抗戦の予選および全国大会を除き、残りは全て開催することができた。しかし2022年1月の朝日新聞社杯は73チームの参加にとどまりコロナ以前の約60%となるなど、参加者数が十分には戻らなかった。JCBLは収入の大幅な減少を補うべく、雇用調整助成金、スポーツ庁のポストコロナに向けた全国規模のスポーツイベント等の開催支援事業の助成金の活用を行った。人件費や普及事業費等の経費削減に努めた。開催の費用負担の大きい横浜ブリッジフェスティバルは無期限の開催中止とした。また、ブリッジセンターの経営支援として公認料の一部返還を2022年3月に行った。

約6,500人の会員および会友については、競技会参加を完全に控えている層が全体の2~3割程度いるとみられている。残りの4千人以上についても、感染が拡大してくると、感染が一定のところにおさまるまでブリッジを一時休止にせざるを得ない層が多い。なお、プレイヤーの感染状況については、ブリッジセンターおよびブリッジクラブ内に参加したプレイヤーが後日陽性になったケースは、1年間で約30人報告された。

感染防止対策については、ブリッジセンターではマスクの義務化、プレイヤー間を仕切るパネルまたはビニールの導入、換気の徹底、手洗いや手指消毒の実施、昼食時の発声の制限などが行われている。

2022年3月現在、1日あたりの感染者数は依然として高い水準にあり、コロナの先行きが見えない状況が続いている。2022年度も辛抱の時期が継続するものと想定し、ブリッジセンターおよびブリッジクラブの活動を引き続き支援し、ブリッジ環境の維持存続に努めていきたい。収入の柱である公認料は2022年度も思うようには回復しないことが考えられ、限られた予算の中でやり繰りしていく。

2. 基本方針

昨年度の事業計画では、中長期的な課題を①事業基盤：積極的な収益増加策を試行していく、②普及活動：体験教室に参加する人数を増加させ、それにつれて入門講習会に進む割合も向上させていく、③高齢化対応：学生リーグの活性化策など成果が目に見える具体的な施策で対応していくことの3点とし、いずれの課題も長期継続的に取り組む必要があるとした。しかし本年度はコロナの影響が甚大であること、およびコロナのさらなる長期化に備えた体力の温存を重視する必要があるため、以下に注力する。

- ① コロナ下における収支の確保：コロナの公認料および主催競技会収入に及ぼす影響が今年度どのように推移するか不明だが、公認料収入および主催競技会収入をコロナの発生前の約 70%と見込み、2021 年度とほぼ同程度とする。引き続き経費を大幅に抑え、623 万円の赤字予算とする。2022 年度は助成金の活用の継続ができるか不透明である。
- ② コロナ下での適切なブリッジ活動の実施：本年度は引き続きコロナの感染防止対策へ十分に取り組み、ブリッジセンターおよびブリッジクラブ内部での感染を防ぐ。コロナ下においてより安心してブリッジがプレイできる環境の維持に努めることが、競技会や講習会の参加人数の増加、およびコロナで休んでいるプレイヤーが復帰しやすい環境の提供につながると考えている。
- ③ 管理部門の経費効率化：2020 年度および 2021 年度で事務局職員の世代交代が進んだ。アルバイトの削減に努めながら、事務局の新しい体制の安定化を図る。
- ④ ブリッジセンターおよびブリッジクラブへの支援：全国約 80 のブリッジセンターおよびブリッジクラブは、コロナにより経営が大変厳しくなっている。ブリッジセンターに対しては 2021 年度中に公認料の一部返還によるセンター支援を、ブリッジクラブには今年度のクラス 2~5 の年会費の半額にする支援を行ったが、今年度も状況に応じて適切な経済的支援を行っていく。その他、ブリッジセンターおよびブリッジクラブの運営や継続に関する相談にはできる限りの協力を行う。
- ⑤ コロナ後の対応：現在は、コロナにより競技会および講習会への参加を控えている層もかなり多く、体験教室や入門教室の参加者も以前より少ない。コロナ後のプレイヤーのブリッジへの復帰の後押し、新規プレイヤー獲得のための活動の支援を、コロナの推移を見ながら適切な時期に行っていく。

事業別基本方針

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

【競技運営】

感染防止対策に十分な配慮を行い、安心な競技会環境の提供を図る。主催競技会の運営においては、世界各国からも高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。

【競技会の向上】

中長期的な課題として、よりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。

【JTOS】

競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）については競技会事業部が継続して保守にあたることとし、使用者のニーズに合わせた新バージョンを随時リリースする。スコア入力システム（ブリッジメイト）の貸与及び導入支援を継続する。

【ディレクター育成】

ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。3年ごとに行っているナショナルディレクター養成プログラムは、次回を2023年度の予定とする。

【ブリッジの規則改正】

デュプリケートブリッジの規則の改正が日本では2018年3月31日から施行され、定着している。今年度はさらなる周知と適切な使用に努める。

II. 普及事業（公益目的事業 2）

【広報活動】

プレスリリースの送付先の整備、SNSプラットフォームの開設等を含め、アジア競技大会出場など普及に有用な話題を既存プレイヤーおよび潜在的な層に効果的な方法で発信できる体制を整える。

【入門講習会支援】

新聞に開催告知広告を掲載し、各センター・クラブ主催の体験教室、入門講習会の参加者の増加を図る。「優待券進呈キャンペーン」を継続し、口コミを活用した入門者獲得を推進する。

【子どもおよびユース】

橋之介くらぶでは、四谷・大船の2会場でブリッジの基礎を学ぶ機会を提供する。大学生を中心としたユースプレイヤーの育成を図るため、オンラインを活用してコストを抑えながら、講習会の開催、合宿の補助、競技会への誘導、クラブ活動の支援を行う。

【大学でのブリッジ授業の開講】

大学でブリッジ授業を開講し、ブリッジに理解のある若い世代の確保とブリッジの知名度の向上を図る。東京大学・早稲田大学・青山学院大学・明治大学・大阪大学・愛媛大学でそれぞれ実施する。

【京阪神の普及活動】

カルチャースクールと連携して一般層の取り込みに力を入れる。大学生を中心とした若い世代に対しては競技会へ積極的に誘致してレベルアップを図る。

【その他各地域の普及活動】

福岡、札幌、仙台及びその他の全国各地域の普及活動に対して、広告宣伝への協力、指導ノウハウの共有を行い、体験教室の開催を支援していく。

III. 国際交流事業（公益目的事業3）

【第19回アジア競技大会】

第19回アジア競技大会は2022年9月に中国の杭州で開催され、男子、混合の2つの代表チームを派遣する。2018年の前回大会では惜しくも逃したメダルの獲得、および2026年愛知大会での競技採用を目指す。

【第4回アジアカップ】

第4回アジアカップは開催地および開催時期は未定である。オープン、レディース、ミックス、シニアの4つの代表チームを派遣する。

IV. 収益事業等

① 公認事業（収益事業1）

- 公認事業関連業務は公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターと連携し、より円滑かつ適正な事業運営となるようシステム化、効率化を進めていく。

② 商品販売事業（収益事業2）

- 在庫管理や販売方法など関連業務の見直し及び効率化を図る。

V. 法人・管理部門

- 「新入会無料キャンペーン」を継続する。
- 各センター・クラブとの連携の強化、プレイヤーにとってより魅力のある連盟を目指し、事務局業務の改善とマニュアル化を推進する。
- 内部統制力の向上のため、連盟内システムの改善に取り組む。
- 進展する高齢化社会に対応し、弾力性のある事業基盤の構築をめざす。

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

【2022 年度の計画概要】

(1) 計画概要

本事業は、当連盟自らが質の高い各種ブリッジ競技会を開催することはもとより、ブリッジセンター／クラブまたは個人が開催するものも含め競技会全般の質を維持し、よりよい競技機会を広く提供することを目的とする。この目的に照らして、(1) 競技会の主催、(2) 競技会運営環境の整備、(3) ディレクターの養成の 3 事業を行う。

これまで 22 回にわたり毎年開催していたブリッジフェスティバルは横浜スイスチーム、横浜オープンペアも含めて、コロナの影響の長期化と開催費用の負担を鑑み無期限の中止とした。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
経常収益	25,920,000	29,800,000	-3,880,000	
経常費用	54,920,000	55,910,000	-990,000	
経常増減	-29,000,000	-26,110,000	-2,890,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
1.1 競技会の主催	経常収益	25,920,000	29,800,000	-3,880,000	
	経常費用	36,490,000	37,530,000	-1,040,000	
	経常増減	-10,570,000	-7,730,000	-2,840,000	
1.2 競技会運営環境の整備	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,720,000	1,720,000	0	
	経常増減	-1,720,000	-1,720,000	0	
1.3 ディレクターの養成	経常収益	0	0	0	
	経常費用	100,000	90,000	10,000	
	経常増減	-100,000	-90,000	-10,000	
1.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	16,610,000	16,570,000	40,000	
	経常増減	-16,610,000	-16,570,000	-40,000	

【事業別計画】

1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

(1) 計画概要

① 主催競技会（詳細は次ページ表を参照）

- ・ ナショナル及びリジョナル競技会、日本リーグ、社会人 IMP リーグを開催する。
- ・ リジョナル競技会については、センター移管した 5 競技会が高い運営レベルを維持されるよう支援・監督する。
- ・ 地方からの参加者に対する交通費・宿泊費助成、前年度優勝者参加料割引を継続する。

② 旧パシフィコシリーズ

- ・ 旧パシフィコシリーズは名称を変更し 2022 年度も開催を継続する。旧パシフィコシリーズ上位 12 名及び地方在住の上位 4 名までを JCBL 主催ナショナル競技会に招待する。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
経常収益	27,920,000	29,800,000	-1,880,000	
経常費用	36,490,000	37,530,000	-1,040,000	
経常増減	-8,570,000	-7,730,000	-840,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
主催競技会	縮小	経常収益	25,920,000	25,920,000	0	2020 年度予算の約
		経常費用	36,260,000	36,240,000	20,000	70%を見込む
		経常増減	-10,340,000	-10,320,000	-20,000	
ブリッジフェスティバル	休止	経常収益		3,880,000	-1,880,000	ブリッジフェスティバル
		経常費用	0	1,290,000	-1,060,000	無期限中止
		経常増減	0	2,590,000	-820,000	

JCBL 主催競技会開催予定表

競技会名	日 程	開催日数	場 所	予定卓数
1) ナショナル競技会(全国大会)				
全日本ウィメンズチーム選手権杯	4月16、17日	2日	四谷 BC	40
全日本地域対抗戦選手権(関東予選)	5月7、8、14、15日	4日	四谷 BC	30
藤山杯	7月2、3日	2日	四谷 BC	30
全日本地域対抗戦選手権(決勝)	7月31日/8月1日	2日	グランドホテル 浜松	32
外務大臣杯(予選・決勝)	8月13、14日	2日	四谷 BC	30
高松宮記念杯	9月10、11、17、18日	4日	四谷 BC / 五反田 BS	70
全日本女子ペア選手権(予選・決勝)	10月1、2日	2日	四谷 BC	24
高松宮妃記念杯(予選・決勝)	10月29日、30日	2日	四谷 BC	30
ブルーリボン杯	12月25日	1日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	70
レッドリボン杯	12月25日	1日	高田馬場 BC/ 大阪 BC	20
朝日新聞社杯	1月7、8、9日	3日	四谷 BC/五反田 BS /高田馬場 BC/渋谷 BC	120
2) 日本リーグ				
1部	前期：4月・5月、 後期：11月・1月	各4日	高田馬場 BC	16
2部		各4日	高田馬場 BC	24
3) リジョナル競技会				
柳谷杯	4月9、10日	2日	四谷 BC/ 高田馬場 BC	60
サントリー杯	4月29日	1日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	60
井上杯(予選・決勝)	5月28、29日	2日	四谷 BC	16
井上歌子杯	5月29日	1日	四谷 BC	20
渡辺杯	3月18、19日	2日	四谷 BC	40
4) 社会人リーグ				
社会人 IMP リーグ				12

2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

- ① 競技会運営管理システム
 - ・ 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行う。
 - ・ スコア入力システム（ブリッジメイト）の使用方法啓蒙活動、導入支援、貸与を行う。
 - ・ 競技会速報システムを改良し使用を推進する。
- ② 競技会運営環境の整備と維持
 - ・ 競技会の規模に応じた競技会場を確保し、運営設備の維持向上に努める。
- ③ 競技委員会管轄事項
 - ・ 上告審理・裁定、公認コンベンションリストの見直し・改正・公表、ディレクター資格の審議・認定、マスターポイント規則の制定・改正を行う。
- ④ ルール委員会管轄事項
 - ・ 「デュプリケートブリッジの規則」及び競技会運営に関わる諸規則・規定の解釈・通知・公表、上告委員会裁定へのさらなる上告の審理・裁定を行う。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,720,000	1,720,000	0	
経常増減	-1,720,000	-1,720,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
競技会運営システム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,470,000	1,470,000	0	
		経常増減	-1,470,000	-1,470,000	0	
競技委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	230,000	230,000	0	
		経常増減	-230,000	-230,000	0	
ルール委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,000	20,000	0	
		経常増減	-20,000	-20,000	0	

3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

- ① ディレクター講習会
 - ・ 例年通り、新人ディレクター育成のための初級ディレクター講習会を、東京で1回、地方で1回開催する。

- ほかに、クラブディレクターを対象とする講習会、及びセクショナルディレクターをめざす方を対象とする講習会を各1回開催する。
- ② ナショナルディレクター養成プログラム
- 3年に1回実施されるナショナルディレクター養成プログラムの次回は2023年度を予定する。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備 考
経常収益	0	0	0	
経常費用	100,000	90,000	10,000	
経常増減	-100,000	-90,000	-10,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2022 予算	2020 予算	前年差	備 考
ディレクター講習会	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	100,000	90,000	10,000	
		経常増減	-100,000	-90,000	-10,000	
ナショナルディレクター養成プログラム	休止	経常収益	0	0	0	ナショナルディレクター養成プログラムの次回は2023年度
		経常費用	0	0	-490,000	
		経常増減	0	0	490,000	

4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

(1) 計画概要

競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備 考
経常収益	0	0	0	
経常費用	16,610,000	16,570,000	40,000	
経常増減	-16,610,000	-16,570,000	-40,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2022 予算	2021 予算	前年差	備 考
管理費 競技会事業部	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	16,610,000	16,570,000	40,000	
		経常増減	-16,610,000	-16,570,000	-40,000	

II. 普及事業（公益目的事業 2）

【2022 年度の計画概要】

(1) 計画概要

今年度はコロナの影響が続くため、普及事業のトータル費用を抑え、コロナ下での必要性が高い事業に絞って行うこととする。ブリッジセンター、ブリッジクラブ、カルチャーセンター、および個人の体験教室、入門講習会などへの助成は例年通りの基準で助成を行う。大学授業の実施については、6 大学全ての実施を予定しているが、昨年度に引き続き半期の実施を基本とし費用を例年の半分程度に抑える。体験ブースの出展についてはコロナの状況を鑑み、出展回数を大幅に絞る。ユース育成に関しては、講習会をオンラインで行うなどコストを抑える。橋之介くらぶは大船、四谷の 2 センターで継続する。プレスリリースの送付先の整備、SNS プラットフォームの開設等を含め、アジア競技大会出場など普及に有用な話題を既存プレイヤーおよび潜在的な層に効果的な方法で発信できる体制を整える。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
経常収益	50,000	50,000	0	
経常費用	24,380,000	24,260,000	120,000	
経常増減	-24,330,000	-24,210,000	-120,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
2.1 体験イベントの開催	経常収益	50,000	50,000	0	
	経常費用	410,000	410,000	0	
	経常増減	-360,000	-360,000	0	
2.2 講習会等の開催	経常収益	0	0	0	
	経常費用	620,000	610,000	10,000	
	経常増減	-620,000	-610,000	-10,000	
2.3 体験教室・講習会等の実施支援	経常収益	0	0	0	
	経常費用	7,180,000	7,180,000	0	
	経常増減	-7,180,000	-7,180,000	0	
2.4 広報	経常収益	0	0	0	
	経常費用	3,870,000	3,870,000	0	
	経常増減	-3,870,000	-3,870,000	0	
2.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	12,300,000	12,190,000	110,000	
	経常増減	-12,300,000	-12,190,000	-110,000	

【事業別計画】

1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

(1) 計画概要

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種体験イベントを実施する。

① 未経験者用イベント

・出展予定イベントは、国民文化祭、霞が関子ども見学デーとする。

② 子ども向け体験イベント（橋之介くらぶイベント）

・体験教室／入門講習会／練習会／競技会を開催し、20名の新入会を目標とする。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
経常収益	50,000	50,000	0	
経常費用	410,000	410,000	0	
経常増減	-360,000	-360,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
文化・教育関連イベント出展 国民文化祭	休止	経常収益	0	0	0	沖縄
		経常費用	140,000	0	140,000	
		経常増減	-140,000	0	-140,000	
文化・教育関連イベント出展 ねんりんピック	前年度並み	経常収益	0	0	0	見送り
		経常費用	0	140,000	-140,000	
		経常増減	0	-140,000	140,000	
文化・教育関連イベント出展 その他のイベント	縮小	経常収益	0	0	0	霞が関子ども見学デーのみ出展
		経常費用	50,000	50,000	0	
		経常増減	-50,000	-50,000	0	
一般向け体験イベント フェスタ体験教室	休止	経常収益	0	0	0	ブリッジフェスティバル 非開催
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	
一般向け体験イベント 初心者大会開催	休止	経常収益	0	0	0	地方招待は見送り
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	
子ども向け体験イベント 橋之介くらぶ運営	縮小	経常収益	50,000	50,000	0	四谷、大船で開催
		経常費用	220,000	220,000	0	
		経常増減	-150,000	-150,000	0	

2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）

(1) 計画概要

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会を開催する。

① ユース向け講習会

・「ユース育成プロジェクト」の一環としてユース向け講習会をオンラインで開催し、

技術向上支援を行う。ユース代表の選考方法を効率化し費用を削減する。

(2) 収支総括	2022 予算	2020 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	620,000	610,000	10,000	
経常増減	-620,000	-1,530,000	-10,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2021 予算	2020 予算	前年差	備考
ブリッジインストラクター講習	休止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	
ユース向け講習会 ユース育成 PJ	縮小	経常収益	0	0	0	オンラインを使用した講習会
		経常費用	620,000	610,000	10,000	
		経常増減	-620,000	-610,000	-10,000	

3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

(1) 計画概要

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体等に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供及びノウハウの提供を行う。

① 一般支援

- 各種体験教室・講習会等は、規定の範囲内で講師及びアシスタント料や交通費等を助成する。体験教室は要請があれば用具・教材の提供や連盟職員の派遣を行うことがある。入門講習会は原則として1期12回までの助成とする。
- 体験イベント支援や海外クラブ支援は、原則として申請に応じて助成する。
- 地方クラブ支援は、地方クラブ・センターのそれぞれの課題に応じた支援を行う。

② 教育現場におけるブリッジ講座支援

- 東京大学、早稲田大学、青山学院大学、明治大学、大阪大学、愛媛大学の6大学で授業を開講する。大学と相談の上、必要に応じてオンラインによる授業を実施する。

③ 学校・学生支援

- 学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立上げ、用具提供）、学生クラブによる他大学の友人・知人へのPR活動推進支援（費用支給）を行う。
- 学生リーグ主催の学生選手権への参加費用を助成する。

(2) 収支総括	2021 予算	2020 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	7,180,000	7,180,000	0	
経常増減	-7,180,000	-7,180,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2021 予算	2020 予算	前年差	備考
普及活動支援 助成規定・海外ク	前年度並み	経常収益	0	0	0	コロナの影響で申請件 数減少が続く
		経常費用	4,500,000	4,500,000	0	

ラブ支援		経常増減	4,500,000	-4,500,000	0	
普及活動支援	休止	経常収益	0	0	0	職員の地方出張は見送り
地方活性化支援		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	
学校講座支援	縮小	経常収益	0	0	0	講師：浅井潔
大学講座		経常費用	320,000	320,000	0	
東京大学		経常増減	-320,000	-320,000	0	
学校講座支援	縮小	経常収益	0	0	0	講師：並木亮
大学講座		経常費用	700,000	700,000	0	
早稲田大学		経常増減	-700,000	-700,000	0	
学校講座支援	縮小	経常収益	0	0	0	講師：大橋正幸
大学講座		経常費用	380,000	380,000	0	
大阪大学		経常増減	-380,000	-380,000	0	
学校講座支援	縮小	経常収益	0	0	0	講師：島村京子
大学講座		経常費用	440,000	440,000	0	
青山学院大学		経常増減	-440,000	-440,000	0	
学校講座支援	縮小	経常収益	0	0	0	講師：清水映樹
大学講座		経常費用	290,000	290,000	0	
明治大学		経常増減	-290,000	-290,000	0	
学校講座支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：TOBY CURTIS
大学講座		経常費用	260,000	260,000	0	
愛媛大学		経常増減	-260,000	-260,000	0	
学校・学生の普及活動支援	縮小	経常収益	0	0	0	学生合宿への支援
		経常費用	290,000	290,000	0	
		経常増減	-290,000	-290,000	0	

4. 広報（公益目的事業 2.4）

(1) 計画概要

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定して PR 活動やプロモーション活動を行う。

① 広報宣伝活動

- ・体験教室、入門講習会開催告知のための首都圏一斉広告を年 2 回実施する。
- ・地方の各センター・クラブ主催の体験教室、入門講習会開催告知のための広告を適宜実施する。
- ・ブリッジの紹介、ルール、初歩の知識を扱ったブリッジ紹介動画を制作し、YouTube やホームページ等で公開する。
- ・メディア広告、地域イベント参加やブリッジ図書寄贈などの PR 活動を行う。
- ・「普及通信」ウェブ版を隔月更新する。

・体験型イベントに出展し知名度の向上とセンター・クラブの入門講習会の支援を図る。

② ウェブサイト運営

・入門用のコンテンツを整理し、わかりやすく見やすい構成に変更する。

③ 広報ツール、プロモーショングッズの作成・配付

・広報ツールやパンフレットの企画・開発を行う。プロモーショングッズを必要に応じて製作または購入する。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	3,870,000	3,870,000	0	
経常増減	-3,870,000	-3,870,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
広報宣伝活動	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,500,000	3,500,000	0	
		経常増減	-3,500,000	-3,500,000	0	
ウェブサイト JCBL ウェブサイトの運営	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	270,000	270,000	0	
		経常増減	-270,000	-270,000	0	
広報ツールの作成・配付	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	100,000	100,000	0	
		経常増減	-100,000	-100,000	0	

5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

(1) 計画概要

- ・ブリッジインストラクター登録管理と登録証発行（3月）
- ・普及事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	12,300,000	12,190,000	110,000	
経常増減	-12,300,000	-12,190,000	-110,000	

(3) 個別事業一覧表

管理費 普及事業部	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	12,300,000	12,190,000	110,000	
		経常増減	-12,300,000	-12,190,000	-110,000	

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

【2022 年度の計画概要】

(1) 計画概要

ブリッジは世界に多くの競技人口を有していることから、ブリッジを通じた国際交流を図ることは、国際親善・国際相互理解促進にとって有意義である。このため、(1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援及び(3)国際的競技団体との交流の3事業を行う。

(2) 収支総括

	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
経常収益	1,850,000	2,110,000	-260,000	
経常費用	12,300,000	14,620,000	-2,320,000	
経常増減	-10,450,000	-12,510,000	2,060,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
3.1 国際競技会の主催	経常収益	110,000	110,000	0	
	経常費用	0	0	0	
	経常増減	110,000	110,000	0	
3.2 国際競技会への参加費用助成	経常収益	1,740,000	2,000,000	-260,000	
	経常費用	7,400,000	9,820,000	-2,420,000	
	経常増減	-5,660,000	-7,820,000	2,160,000	
3.3 国際的競技団体との交流	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,030,000	1,030,000	0	
	経常増減	-1,030,000	-1,030,000	0	
3.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	3,870,000	3,770,000	100,000	
	経常増減	-3,870,000	-3,770,000	-100,000	

【事業別計画】

1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）

(1) 計画概要

国際大会開催準備金については 2021 年度の積み増しは行わない。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
経常収益	110,000	110,000	0	
経常費用	0	0	0	
経常増減	110,000	110,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
APBF 選手権/コングレス	前年度並み	経常収益	110,000	110,000	0	国際大会開催準備金は継続
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	110,000	110,000	0	

2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

(1) 計画概要

① 日本代表選抜

- 日本代表選抜試合を開催し、2023 年度に開催される第 54 回 APBF 選手権のオープン、ウィメン、ミックス、シニアの各チームをそれぞれ選抜する。遠隔地からの参加者には、交通費と宿泊費を助成する。
- 代表チームの国内競技会参加費及び練習会の費用を助成する。

② 国際競技会派遣

第 19 回アジア競技大会

第 19 回アジア競技大会は 9 月に中国の杭州で開催される。男子、混合の各チームの選手、キャプテンの派遣を行う。

第 4 回アジアカップ

第 4 回アジアカップは開催地、時期ともに未定である。オープン、レディース、ミックス、シニアの各チームの選手、キャプテンの派遣を行う。

- 日本代表のユニフォームを作成、代表選手に支給する。

③ 国際競技会派遣（ユース）

APBF ユース選手権

APBF ユース選手権は開催地、時期ともに未定である。ジュニア、ヤングスター（グレードⅢ）の選手、キャプテンの派遣を行う。

世界ユーストランスナショナルブリッジ選手権

世界ユーストランスナショナルブリッジ選手権は 8 月にイタリアで開催される。ジュニア、ヤングスター（グレードⅣ）の選手の派遣を行う。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備 考
経常収益	1,740,000	2,000,000	-260,000	
経常費用	7,400,000	9,820,000	-2,420,000	
経常増減	-5,660,000	-7,820,000	2,160,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2022 予算	2021 予算	前年差	備 考
日本代表選抜	縮小	経常収益	240,000	500,000	-260,000	
		経常費用	1,000,000	600,000	400,000	
		経常増減	-760,000	-100,000	-660,000	
国際競技会派遣 APBF 選手権/アジアカップ	実施	経常収益	1,500,000	0	1,500,000	アジアカップ開催年度
		経常費用	3,870,000	610,000	3,260,000	
		経常増減	-2,370,000	-610,000	-1,760,000	
国際競技会派遣 アジア競技大会 /世界選手権	縮小	経常収益	0	1,500,000	-1,500,000	アジア競技大会開催 年度
		経常費用	500,000	5,490,000	-4,990,000	
		経常増減	-500,000	-3,990,000	3,490,000	
国際競技会派遣 その他	休止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	
国際競技会派遣 日本代表ユニフォーム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	680,000	680,000	0	
		経常増減	-680,000	-680,000	0	
ユース育成プログラム APBF/コングレス派遣	縮小	経常収益	0	0	0	ジュニアおよびヤング スターをグレードⅢによ り派遣
		経常費用	1,260,000	1,260,000	0	
		経常増減	-1,260,000	-1,260,000	0	
ユース育成プログラム 世界選手権派遣	縮小	経常収益	0	0	0	グレードⅣにより派遣
		経常費用	90,000	1,180,000	-1,090,000	
		経常増減	-90,000	-1,180,000	1,090,000	
ユース育成プログラム 世界選手権/大学選手権	休止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	
ユース育成プログラム その他国際 競技会参加支援	休止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	

3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

(1) 計画概要

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、本年度は以下の事業を実施する。

① 世界同時大会への参加

- 2022年に開催される世界同時大会開催に参加協力する。

② 海外競技会に参加する会員・会友の支援と海外への情報提供・収集

- ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催予定情報を提供する。
- APBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。
- WBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。

③ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員に提供する。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,030,000	1,030,000	0	
経常増減	-1,030,000	-1,030,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2021 予算	2020 予算	前年差	備考
国際的競技団体との交流	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,030,000	1,030,000	0	
		経常増減	-1,030,000	-1,030,000	0	

4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

(1) 計画概要

国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	3,870,000	3,770,000	100,000	
経常増減	-3,870,000	-3,770,000	-100,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
管理費 国際交流事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,870,000	3,770,000	100,000	
		経常増減	-3,870,000	-3,770,000	-100,000	

IV. 公益事業共通

【2022 年度の計画概要】

(1) 計画概要

基本財産運用益及び会費収入の 50%を公益事業及び法人会計にそれぞれ繰り入れ、公益事業活動の原資とする。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
経常収益	13,500,000	15,000,000	-1,500,000	
経常費用	0	0	0	
経常増減	13,500,000	15,000,000	-1,500,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
公益事業共通	縮小	経常収益	13,500,000	15,000,000	-1,500,000	シニア移行とコロナに
		経常費用	0	0	0	よる会員更新の伸び
		経常増減	13,500,000	15,000,000	-1,500,000	悩み

V. 収益事業等

【2022年度の計画概要】

(1) 計画概要

公認事業は競技会事業部が、商品販売事業は事務局が担当する。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備 考
経常収益	91,600,000	98,000,000	-6,400,000	
経常費用	23,010,000	28,890,000	-5,880,000	
経常増減	68,590,000	69,110,000	-520,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	2022 予算	2021 予算	前年差	備 考
1 公認	経常収益	85,500,000	83,500,000	2,000,000	
	経常費用	16,160,000	16,160,000	0	
	経常増減	69,340,000	67,340,000	2,000,000	
2 商品販売	経常収益	6,100,000	14,500,000	-8,400,000	実績値を反映、コロナにより 売上大幅減
	経常費用	6,850,000	12,730,000	-5,880,000	
	経常増減	-750,000	1,770,000	-2,520,000	

【事業別計画】

1. 公認（収益事業等 1）

(1) 計画概要

「公認クラブとブリッジセンターに関する規則」に定める条件を満たしブリッジの普及に努める団体を公認クラブ及び公認ブリッジセンターとして承認し、その活動を支援するとともに、同規則その他当連盟の定める諸規程に基づいてこれらの団体が開催する競技会を公認競技会として承認する。公認競技会における各競技者の成績は、公式な成績としてマスターポイントを発行し、記録・管理する。

公認事業関連業務の見直しを行い、システム化と効率化を図る。

「センター協議委員会」を中心に公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターとの協議を継続し、公認料制度の見直しを含め、ブリッジの普及と発展に資する公認制度の在り方を検討していく。

収益事業等 1.1 競技会の公認

① クラブ・センター主催競技会の公認

- ・ ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲームを公認する。
- ・ ナショナル、リジョナル、セクショナル、IMP リーグの公認料率は参加料の 22%を継続する。ブリッジセンターについては 2020 年度の普及活動実施状況により、2021 年度の公認料率を決定する。
- ・ ユースプレイヤーに対する競技会参加料割引を実施する。

② マスターポイントの認定・管理

- ・ マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行う。

収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

① ブリッジクラブの公認と育成

- ・ ブリッジクラブ及びブリッジセンターを公認する。
- ・ 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に努める。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行う。
- ・ 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED 設置及びバリアフリー工事支援事業を行う。

② 競技会開催支援

- ・ 地方リジョナル開催時のディレクター派遣費用の支援を行う。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
経常収益	83,500,000	83,500,000	0	
経常費用	16,160,000	16,160,000	0	
経常増減	67,340,000	67,340,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
競技会の公認	縮小	経常収益	83,500,000	83,500,000	0	公認料収入は2020年度予算の約70%と見込む
		経常費用	15,570,000	15,570,000	0	
		経常増減	67,930,000	67,930,000	0	
コントラクトブリッジクラブの公認と育成	縮小	経常収益	0	0	0	AED 購入及びバリアフリー工事助成 地方リジョナル支援
		経常費用	590,000	590,000	0	
		経常増減	-590,000	-590,000	0	

2. 商品販売（収益事業等 2）

(1) 計画概要

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の販売を行う。在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
経常収益	6,100,000	14,500,000	-8,400,000	実績値を反映、コロナにより売上大幅減
経常費用	6,850,000	12,730,000	-5,880,000	
経常増減	-750,000	1,770,000	-2,520,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
商品販売事業	縮小	経常収益	6,100,000	14,500,000	-8,400,000	
		経常費用	6,850,000	12,730,000	-5,880,000	
		経常増減	-750,000	1,770,000	-2,520,000	

VI. 法人・管理部門

【2022 年度の計画概要】

(1) 計画概要

1. 会員・会友

① 会員・会友向け刊行物の発行

- ・ 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行する。今後会報発行の頻度を削減することが可能か検討する。

『JCBL BULLETIN』（会報） 隔月刊年 6 回奇数月 1 日に発行、部数：6,800 部

『JCBL HANDBOOK』 毎年 5 月 1 日発行、部数：7,000 部

② JCBL ライブラリーの運営

- ・ 通常の新刊書に加えて、欠落していた図書の追加購入を行う。

③ キャンペーン

- ・ 会員・会友向けに以下のキャンペーンを実施する。

入会キャンペーン 前年度に引き続き新規入会者の会費を 2023 年 3 月まで無料にする「新入会無料キャンペーン」及び、紹介者に QUO カードを進呈する「紹介キャンペーン」を実施する。

ビギナーズ杯招待 初心者プレイヤーに対する競技会参加奨励策として実施。各ブリッジセンターで開催されるビギナーズ杯に抽選で招待する。

2. 組織運営

- ・ 事務局業務の改善に引き続き取り組む。組織運営体制及び事務局の人員体制の変更を勘案して、業務の効率化を推進する。
- ・ 内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。

3. 常設委員会

① 企画委員会

- ・ 企画委員会は、毎年度の予算及び事業計画の策定のほか、10 年後の連盟及び会員・会友のあり方を想定して事業部ごとの中期計画を策定することと、連盟のさまざまな制度の見直しと改革を使命とする。
- ・ 今年度はコロナの影響下における収支の確保、ブリッジセンターおよびブリッジクラブの継続のための支援を最大のテーマとする。、コロナの感染防止対策を徹底する。その他連盟の中長期的な財政基盤の充実と、現在のブリッジの競技環境の維持に取り組む。連盟主催・公認競技会の参加者を増やす方策を中心にすえて、連盟の事業運営の安定化をめざす。
- ・ ナショナルディレクター採用試験の円滑な実施と JTOS の適切な運用に留意する。

② センター協議委員会

- ・ センター協議委員会は、競技会と普及活動の拠点であるブリッジセンターと当連盟との協力関係の構築を使命とする。
- ・ コロナに関する様々な課題にブリッジセンターと連携して取り組む。コロナ下での適切な競技会の開催、感染防止対策、ブリッジセンターの経営安定化について情報交換を行い、必要な施策を行う。

- 過去数年間で実現した連盟とブリッジセンターとの新しい会計基準の導入、対応の難しいプレイヤーに関するガイドラインの策定、体験教室・入門教室などに関する助成制度の見直しや追加などについて、今年度も引き続き見直しと拡充をはかる。
- 競技会参加者数の維持および新規参加者の増加に向けて、ブリッジセンターとの協議を通じて、さまざまな方策を提案できるよう努める。

(2) 収支総括	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
経常収益	13,840,000	15,340,000	-1,500,000	
経常費用	38,380,000	42,360,000	-3,980,000	
経常増減	-24,540,000	-27,020,000	2,480,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2022 予算	2021 予算	前年差	備考
会員・会友 刊行物の発行	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,370,000	3,370,000	0	
		経常増減	-3,370,000	-3,370,000	0	
会員・会友 JCBL ライブラリー	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	5,320,000	5,320,000	0	
		経常増減	-5,320,000	-5,320,000	0	
会員・会友 キャンペーン	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	180,000	160,000	20,000	
		経常増減	-180,000	-160,000	-20,000	
組織運営 管理部	縮小	経常収益	13,840,000	15,340,000	-1,500,000	
		経常費用	29,510,000	33,510,000	-4,000,000	
		経常増減	-15,670,000	-18,170,000	2,500,000	